

### 3 文章を読むことが苦手な子どもへの手立ての例

#### A 要因として、読字障害があり、文字の読みの指導が必要なケース

「見る（視覚）」 「聴く（聴覚）」 「音読」と、他の感覚刺激を活用して、文字と音のつながりを教える。（多感覚的技法）  
色々な形の弁別力や、音の弁別力をつける。  
絵と文字・文字と音のマッチング、似ている文字の弁別練習。  
単音、単語、文節等段階的に指導する。  
読み聞かせを大切に。（聴覚）  
文節読み、交互読み等の方法で読ませる。（音読）

#### B 要因として、視覚認知に障害があり、補助手段が必要なケース

ガイドラインをつけて読ませたり、1行ずつ提示する。  
文字を指で押さえながら読ませる。  
文字を拡大したり、他の行を隠して読ませる。

#### C 要因として、PDDであったり、記憶力に課題があり、読みとった内容を組み立てていくための援助が必要なケース

注目する部分にラインを引く。  
メモ形式にまとめる。  
段落毎に状況を説明する。  
図式化する。  
視聴覚機器の活用（テープで聞かせる。ビデオを見せる。等々）